

頑張る

農業法人

地域農業を支えてきた三つの任意組合を母体に、地区内の農家73戸が株主となって2013年6月に設立した綾部市白道路地区の農業生産法人株式会社白道路興農会（はそうじこうのうかい）。水稻の受託作業を中心に特別栽培米の生産に取り組み、昨年12月には認定農業者となった。

今後は同社の経営を軌道に乗せて、野菜の6次産業化や同地区伝統の和紙の原材料「楮（こうぞ）」の生産などの経営拡大に取り組みを検討しており、担い手育成や雇用確保を目指す。

同地区は同市中西部に位置する中山間地域で、1993年に圃場（ほじょう）整備が完了し農地が約43㍏広がる。大き

なつた圃場を扱えなくなつた農家が多くなつてきたことから、同地区で1927年から活動を行つてきた「興農会」と2004年に結成された「グリーンサービス」「高波カントリー」の三つの任意組織が23㍏で米の作業受託や生産、販売を担つてきた。

しかし、高齢化が進み遊休農地が増えてきたことから、利用権設定ができる法人を必要とする気運が高まり、12年5月に3組織の役員で準備委員会を立ち上げ、市、JA京都にのくに等の指導を受けて同社を設立した。

平田義視さん（71）を代表取締役社長に、役員11人で運営する。農繁期には地域の農家約8人をオペレーターとして雇用する。

(株) 白道路興農会

綾部市

同地区では、

法人化と

平行して地域農業の将来像を話し合い「京力農場

成し、同社が中心となつ

経営拡大し6次化も



地域農業持続や後継者確保などの事業に取り組み
法人の平田社長（左から2人目）と役員ら

後継者育成と雇用確保に力

て実践に取り組んでい

現在、水稻21㍏の農作業受託と、水田5・3㍏で利用権設定して特別栽培米を生産し、JAに出荷する。利用権設定は同プランに基づき7・3㍏に増やす計画だ。

任意組織の時代から運営してきた米の乾燥施設は、地域農業の維持に貢献するだけでなく、法人経営の柱になっている。

代表取締役の平田さんは「生まれたての会社だが、地域農業振興の大きな力として期待されている。経営規模を拡大し、米生産や農作業受託だけでなく野菜生産や6次産業化で高収益の経営を目指す。そうすることで、後継者の育成と年間雇用の確保につなげていきたい。」と話す。

▽法人所在地 綾部市白道路町桜ヶ坪22の2。
電話 0773(49)0596 (平田社長宅)。